



FRONTEO

株式会社FRONTEO
会社案内



FRONTEOの理念

Bright Value

記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さない

私たちは AI を駆使し、

記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないための

最適なソリューションを提供することにより、

社会のさまざまな場面で必要かつ適切な情報に出会える

フェア（fair）な世界を実現します。



FRONTEO：Front（英語）最先端 + eo（ラテン語）前へ進む

Frontier Technology Organization の略語で「進歩的かつ先端的な価値創造集団」という意味をあらわしたものです。

シンボルマーク（Bright Symbol）は放射状の軸線で AI を核とした企業と事業の広がりやその可能性を表現。グラデーションで視覚化された求心力と遠心力は、多様性と強いパワーを象徴しています。

真のAI企業として

FRONTEOは独自開発の言語系人工知能（AI）エンジンを柱とするソリューションを提供し、さまざまなフィールドにおける社会課題の解決に貢献してまいりました。

わが国では新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経済全体は大きなダメージを受けておりますが、一方で各産業において DX（デジタルトランスフォーメーション）投資は増大しており、人が行う作業をデジタル化することで業務を効率化し、高度化する AI 製品の需要は急激に増大しております。

当社グループでは現在、お客様の業務プロセスに AI を実装してきたフロントランナーとして、真の AI 企業への変容を目指し、AI を主体としたビジネスモデルへの転換を推し進めております。2021 年 3 月期においては、DX 化の流れを追い風にポートフォリオトランスフォーメーションが奏功し、AI ソリューション事業の売上高、リーガルテック AI 事業の AI 案件の売上高が大幅に成長いたしました。

新たなコア事業となったライフサイエンス AI 分野では、「会話型 認知症診断支援 AI プログラム」について独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に治験届を提出し、2021 年 4 月より臨床試験を開始いたしました。世界初の言語系 AI 医療機器としての承認取得・上市に向けて着実に開発が進展しております。また、創薬支援 AI システムの製品普及も進捗しており、企業のみならず、アカデミアの分野でも導入が進みました。

企業の DX 化の影響が大きいビジネスインテリジェンス分野では、規制順守を目的とした AI ソリューションの導入を始めとして、企業の複数部門で当社の AI 製品群の浸透が進んでおり、金融分野においては複数の大型案件の獲得に繋がりました。

また、リーガルテック AI 事業では、ポートフォリオトランスフォーメーションの要である AI レビューツール「KIBIT Automator」を活用した案件の受注が着実に積み上がりました。

さらに、経済安全保障分野においても、情報分析ソリューションの提供を開始しました。近年、最先端技術のデュアルユース（軍民両用）が急激に加速したことにより、経済安全保障に対する政財界での関心が高まっております。当社はオープンにされている情報を収集・分析することで企業間 / 株主間 / 研究者間のつながりを可視化し、チョークポイントを見つけ出すことによって、非常に複雑な世界の状況を把握し、経済安全保障における戦略の立案・実行に貢献します。

当社グループは今後も、独自の AI 技術によって各産業の DX 化を推進し、業務課題のみならず、社会課題の解決に取り組むことで、事業の飛躍的な成長に邁進してまいります。

株式会社FRONTEO 代表取締役社長



自然言語処理に特化したFRONTEOのAI

Kibit+

少ない教師データで「人間の判断」を再現するAI

KIBIT(キビット)は、個々の人間が持つ判断の仕組みや感覚(いわゆる暗黙知)を学習することで、人間に代わって判断や情報の選び方を再現する人工知能として誕生しました。学習・評価を担う独自の人工知能技術「Landscaping」と、データ解析の現場を通じて収集・体系化されたナレッジ「行動情報科学」で、メールや文書など非定型のテキストデータを解析します。「少量の教師データで解析ができ、導入までの時間が短い」「大規模な計算リソースが不要で、処理が軽い」ことが特徴です。

当社のリーガルテックAI、ビジネスインテリジェンス領域の製品群に横断的に搭載されており、弁護士や企業のマネジメント層などをはじめとする、様々な情報の中から必要な情報をくみ取り判断を下す人々の判断の仕組みを捉えるなど、言語化できない人間の機微を学習し、社会の多様なシーンで活用されています。

数十件のデータで始められる

ノートPC1台で分析OK

分析スピードは人間の4,000倍

FRONTEO自社開発AIの特徴

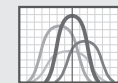
microAI



少量の教師データ



少量の
コンピュータリソース



高い精度

企業のあらゆるシーンで人間の判断を助け、業務効率化に寄与する人工知能 KIBIT(キビット)と、ライフサイエンス領域に特化し医療や研究の発展に貢献する人工知能 Concept Encoder(コンセプトエンコーダー)を独自に開発。いずれも、人間が普段使っている「言語」の処理に優れたAIです。

concept Encoder

ライフサイエンス領域に特化したベクトル型AIエンジン

Concept Encoder(コンセプトエンコーダー)は、FRONTEOが開発したライフサイエンス領域専門の人工知能です。専門性の高いテキストデータを大量に含む医療データを独自の特許技術に基づいて解析し、有効に解析・活用することを目的としています。言語をベクトルとして扱うことにより、有意差検定などの統計学的手法を自然言語解析に導入。また、言語以外のデータとの共解析も可能です。

FRONTEOは、Concept Encoderを活用した様々なソリューションの研究開発を進めています。

特許登録番号：特許第6346367号

電子カルテ、論文の自然文解析

テキストデータの可視化

数値データとの共解析が可能

事業分野

FRONTEOの事業は、独自開発のAIの真価を発揮するリーガルテックAI事業とAIソリューション事業で構成されています。

量が膨大であるがゆえに活用しきれていない、記録(文書、テキスト)の価値に着目し、解析することで、AIによって人の判断を支援し、業務効率化やデータを知見に変えるサービスを提供しています。



リーガルテックAI事業



訴訟や不正調査の証拠発見にAIを導入し、圧倒的な効率化を実現

米国の証拠開示手続きにおける「電子データの保全・調査分析(eディスカバリ支援)」と不正調査における「デジタルフォレンジック調査」を2本の柱とした事業です。AIを活用することにより他社と差別化を図り、eディスカバリ支援において画期的なAIレビュー製品「KIBIT Automator」を2019年に提供、日米の市場で活用実績を積み上げています。

- 国際訴訟ディスカバリ対応件数 8,300件以上
- 不正調査対応件数 1,800件以上(いずれも2021年3月末現在)

AIソリューション事業

●ビジネスインテリジェンス



企業のテキストデータ資産を活用した業務効率化から経営判断までを支援

独自開発のAIエンジン「KIBIT」を金融、製造、建設、知財や官公庁など幅広い分野に提供しています。真に価値のある情報をデータから導き出し、ビジネス上の判断を支援。多様なビジネスシーンにおいて、業務の効率化や精度向上をサポートします。

●ライフサイエンスAI



イノベーションの創造を通して、医療の質向上に貢献

FRONTEOのライフサイエンスAI事業は、誰もが標準医療にアクセスできる社会の実現を理念とし、現代が抱える医療課題にAIで挑戦しています。各分野の専門家とタッグを組みながら、“Patient First, Evidence-based”な研究開発を推進し、様々なイノベーションを創造していきます。

公正な社会実現にむけた新たな取り組み

会話型 認知症診断支援AIプログラム 治験開始

2021年4月26日、会話型 認知症診断支援AIプログラムの製造販売承認取得に向け、治験を開始しました。本プログラムが医療機器として承認されることにより、①認知症の早期発見、②認知症検査の標準化、③患者と医療従事者双方の身体的・心理的負担の軽減、④遠隔医療などのデジタル医療の進展など、医療の標準化や効率化に大きく貢献できるものと考えています。



2021年3月、治験開始の発表記者会見にて

第一種製造販売業許可取得

2021年1月13日、東京都より第一種医療機器製造販売業許可(許可番号:13B1X10350)を取得しました。これにより、FRONTEOはAI医療機器の技術開発から製品開発・臨床開発・製造・販売まですべてを自社で行うことが可能となり、国内初の言語系AI医療機器のワンストップモデルを構築しました。

経済安全保障

経済安全保障の分野に対応したAIソリューションの提供を開始しました。近年、最先端技術のデュアルユース(軍民両用)が急激に加速したことにより、経済安全保障に対する政財界での関心が高まっています。当社のAIソリューションでは、オープンになっている情報を収集・分析することで、企業間/株主間/研究者間のつながりを可視化し、チョークポイント(戦略的に重要な意味を持つポイント)を見つけ出します。これにより、非常に複雑な世界の状況を把握し、経済安全保障における国家戦略の立案・実行への貢献やトップマネジメント層の経営戦略立案の支援を実現します。

AIナレッジシェアシステム 匠KIBIT

製造業における技能伝承や、企業内での組織知形成に役立つAIナレッジシェアシステム「匠KIBIT」の販売を開始しました。多くの企業で多拠点化、テレワークが進み、トレーニングや技能伝承、ナレッジ共有の手段の変化が求められるなか、組織知としてエキスパートの知見を蓄積することで、ナレッジシェアの基盤づくり、企業力の向上に貢献します。

危険予知AIシステム 兆KIBIT

建設現場や工場など命に係わる現場での注意喚起をサポートする、危険予知AIシステム「兆KIBIT」の提供を開始しました。事前に学習した過去の災害事例の中から、その日の作業と類似する事例を、関連の深いものから順に提示します。具体的なリスクを共有することで注意喚起の形骸化を防ぎ、災害リスク削減を支援します。

ライフサイエンスAI

Medical Device 領域

2021年1月に東京都より第一種医療機器製造販売業許可を取得(許可番号:13B1X10350)。AI医療機器の技術開発・製品開発・臨床開発・製造・販売までのプロセスを単独で行える体制を構築しました。今後もパイプラインの更なる拡充を図っていきます。

会話型 認知症診断支援 AI プログラム

医師と患者の会話を解析し、
認知症を客観的に評価

日本の認知症患者数は2025年には730万人(高齢者の約5人に1人)に達するとされます*1。超高齢社会において、認知症対策は早急に解決すべき国民的課題です。本プログラムは、10分程度の短い日常会話から認知症の有無を判定する画期的なAI医療機器です。診断者・受診者双方の負担を軽減し、認知症の早期発見を可能とします。2021年4月に臨床試験を開始し、製造販売承認取得に向け開発を進めています。

(特許登録番号:特許第6733891号)

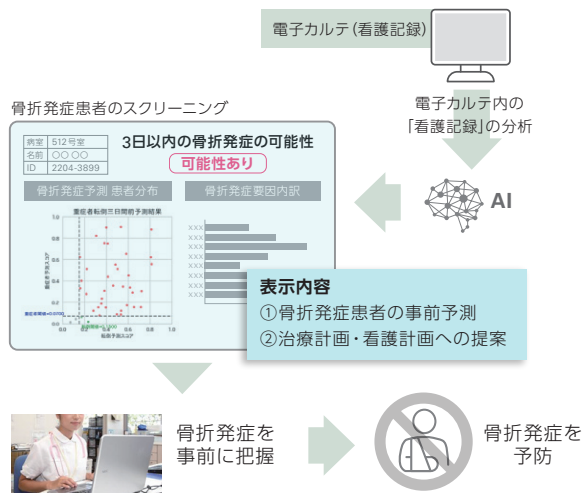
※1 厚生労働省「認知症施策の総合的な推進について」より
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000519620.pdf>



骨折スクリーニングAI プログラム

電子カルテなどの医療情報から
骨折発症患者を自動スクリーニング

電子カルテなどに記載された医療情報をAIが解析し、骨折発症患者をスクリーニングします。医療スタッフは、これを参考に治療計画や看護計画を立て、患者の骨折発症を未然に防ぐことができます。高齢者の骨折は、要介護状態・寝たきり状態や認知症の進行だけでなく、死亡にもつながる重大なリスクです。本機器の実用化により、高齢者医療の質の向上や高齢者のQOL改善、介護者の負担軽減、国民医療費抑制への貢献をめざします。



Medical Intelligence 領域

企業やアカデミアにおける医療・創薬領域でのAI活用・DXニーズに対応する多様な製品を展開。文献情報や医療情報、法規制など専門性の高い情報の処理・解析により、研究や事業の効率化と発展を支援します。

論文探索 AI 「Amanogawa」

約2000万報の論文を数分で検索
医学・創薬研究を大幅に効率化

研究者が入力した自然文による仮説や論文要旨をもとに、AIがPubMed*2に収載された膨大な論文の中から関連する情報を検索し、類似度の高い2万報をプロット表示。人では読み込むことが不可能な量の論文情報を、わずかな時間で分析・可視化するため、医学・創薬研究の大幅な効率化につながります。(特許出願中)

※2 米国国立医学図書館・国立生物科学情報センターによる論文データベース

創薬支援 AI 「Cascade Eye」

病気に関連する分子・遺伝子をパスウェイに表示
創薬ターゲットの網羅的探索を支援

疾病に関係する分子や遺伝子の情報を解析し、パスウェイマップ状に表示します。分子・遺伝子間の関係性と全体像、既存薬の有無を可視化します。ターゲット探索プロセスを大幅に効率化し、全く違う疾病に使用されている既存薬の転用の可能性の発見や、これまで見つからなかったバイオマーカーの同定など、イノベティブな創薬アプローチも可能です。(特許出願中)

医療情報 AI 解析システム

医療情報からAIが疾患・症状を予測する
診断・診療支援ソリューション

電子カルテをはじめとする医療情報を解析し、潜在疾患や副作用のスクリーニング、予後予測などの診断・診療支援を総合的に行うソリューション。膨大・多様かつ専門性の高い医療情報を基に、AIが自動医療辞書や自動診断・診療支援システムを構築します。また、電子カルテに記録されたテキスト情報から患者の心理的な側面も解析するなど、診療効率や患者の治療満足度の向上につながる多様な活用を展開します。

製薬企業向け業務支援 AI システム 「Guideline Viewer」

製薬企業のプロモーション活動と
コンプライアンス順守を効率的に支援

AIが製薬企業の販売情報提供資材やプレゼンテーションスライド、MR(医薬情報担当者)の業務記録、Eメールなどを解析し、厚生労働省の「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に抵触する箇所がないかをチェック。監督部門が特に確認すべき重要文書・箇所などを抽出します。人による審査の基準・精度の差の抑制、審査業務の大幅な負担軽減を実現します。

ビジネスインテリジェンス

技能伝承

- エキスパート人材の技能伝承
- ナレッジシェア文化の醸成
- 組織知の蓄積
- 若手育成

新製品開発の複雑化、規制や法令順守の対応、社内申請の手続きなど、専門性が高いエキスパートには社内から日々質問が寄せられ、多くの工数を費やしています。FRONTEOでは、エキスパートの「問い合わせ対応工数」を大幅に削減するとともに、若手の育成や組織全体の知識・技能レベルの底上げをサポートするナレッジシェアシステム「匠KIBIT」を提供しています。匠KIBITは工数削減のみならず、ナレッジシェアの基盤づくり・文化の醸成、ひいては企業力の向上に貢献します。



危険予知

- 建設現場の朝礼の形骸化を防止
- 工場などでの作業リスク把握

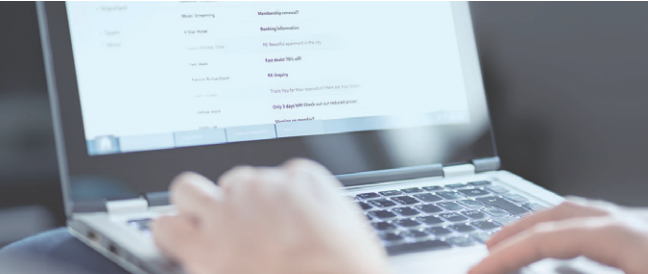
労働災害を防止するため、多くの企業では、社員に正しい知識と的確な行動を身に付けさせるKYT(危険予知訓練)・KYK(危険予知活動)を行っています。FRONTEOでは、建設現場や工場など命に係わる危険が伴う現場で、注意喚起をサポートするシステム「兆^{キゼン}KIBIT」を提供しています。兆KIBITは過去の事故データを有効活用し、建設現場の事故削減を支援します。



コンプライアンス

- 営業活動におけるコンプライアンスチェック
- クレーム予兆検知
- ハラスメント検知
- 情報漏えい検知

情報漏えいなどの不正対策や、金融機関でのフィデューシャリーデューティー対応などにKIBIT製品が活用されています。メールやチャットを通じたコミュニケーションにおける不正を監査する「Communication Meter」、営業の日報やお客様からのお問い合わせを分析し、リスクとチャンスの予兆を発見する「Knowledge Probe」、ユーザー企業様が既に保有しているシステムとKIBITを連携するためのAPI「KIBIT-Connect」などの活用により、コンプライアンスチェック業務を大幅に効率化することのみならず、膨大な量のテキストデータを漏れなく解析することが可能です。



主なプロダクト



AI ナレッジシェアシステム
匠KIBIT



危険予知 AI システム
兆^{キゼン}KIBIT



KIBIT と他のシステムとの連携を可能にする API
匠i+ - Connect



人工知能によるメール&チャット監査システム
匠i+ Communication Meter



人工知能によるビジネスデータ分析支援システム
匠i+ Knowledge Probe



人工知能による特許調査・分析システム
匠i+ Patent Explorer

導入企業数
(累積)

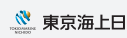
253社

(2021年3月末現在)

※AIソリューション全体

■ 金融

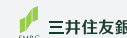
 横浜銀行

 東京海上日動

 りそな銀行

 SMBC日興証券

 MUFG 三菱UFJ銀行

 三井住友銀行

 Orico

 三井住友DSアセットマネジメント

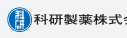
 MIZUHO

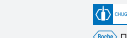
■ 医療

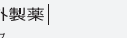
 Daiichi-Sankyo

 EAファーマ

 大日本住友製薬

 科研製薬株式会社

 中外製薬

 ロシュグループ

■ サービス、コンサルティング

 ソラスト

 LITALICO

 RACE

 NOHMI

 AEON

 GLOBIS

■ メーカー

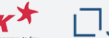
 Panasonic

 FURUNO

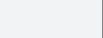
 TOYO TIRES

 EIZO

 INNO LUX

 TPK

 JDI

 SHOWA DENKO

 東ソー株式会社

 Soken

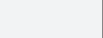
 RIVERFIELD

 TOYOBO

 TORAY

 自然・健康・科学の 漢方の ツムラ

 LION

 Ajinomoto

 kuraray

 kikkoman

 サッポロ一番

 AGC

 YOKOGAWA

 SHI-EIDO

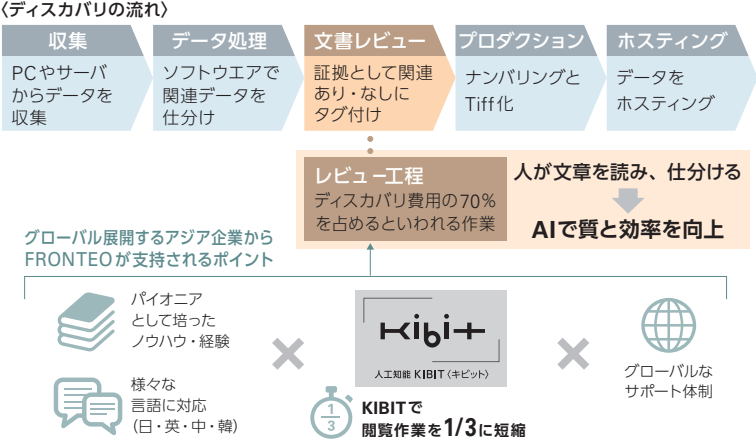
 TEIJIN

リーガルテックAI

AIで質と効率を大幅に向上 ――国際訴訟における証拠開示手続き(ディスカバリ)

企業が保有する大量のメールや文書から重要な証拠を探し出す

米国訴訟における一般的な手続きの一つに「証拠開示手続き(ディスカバリ)」があります。トライアルの前にディスカバリを行って証拠を見せあうことで、原告・被告両者が「事実」を正しく認識し、当事者同士でできるだけ解決することを目的としています。膨大な量のメールや文書ファイルの中から証拠を探し出す重要な作業ですが、FRONTEOは独自開発AIを活用したAIレビューツール「KIBIT Automator」を活用することで、確認すべき文書量と費用の大幅な削減を実現しています。



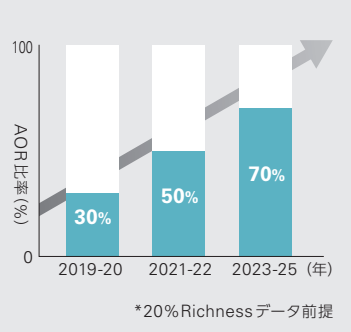
KIBIT Automator 日米での活用実績多数

実績と効果

AI Only Review (AOR)率80%以上を複数で達成

No.	企業	業界	司法管轄	活用機能	コスト削減率(%)
1	K社	化学		AOR	90%
2	A社	製造		AOR	83%
3	M社	化学		AOR	83%
4	B社	建設		AOR	76%
5	J社	製造		AOR	70%
6	C社	金融		AOR	66%
7	N社	製造		AOR	51%
8	E社	製造		AOR	46%
9	O社	機械		AOR	37%
10	O社	製造		AOR	33%
11	P社	金融		AOR	31%
12	D社	食品		AOR/PrivQC/Hot Search	30%
13	I社	不動産		AOR Priv	23%
14	F社	運輸		AOR	20%
15	G社	ヘルスケア		Hot Search	n/a

AOR※の比率平均70%以上の世界を目指す



※AI Only Review (AOR) 率とは: AIだけでレビューする箇所の割合

米国で「KIBIT Automator」の実証実験を実施

BakerHostetler 弁護士事務所
パートナー弁護士
ジャック・フォナチアリ氏のコメント



FRONTEOの「KIBIT Automator」を使用することで、文書レビューで重要な品質を犠牲にすることなく、レビューにかかる時間を大幅に短縮することができました。また、AIを用いて効率的にレビューが進められるという結果が得られたことから、今後の実案件でも活用していくことを楽しみにしています。

不正調査(フォレンジック)

不正行為が疑われる対象者の
パソコンや携帯のデータから事実を究明

世の中を騒がせるような大きな不祥事が発生した後に、中立的な立場での調査を目的として設立される「第三者委員会」でもFRONTEOのフォレンジックが活躍しています。決められた期限内に調査対象者のメールや文書などのデジタルデータの保全、処理、解析を行うことで、事件の真相解明を支援しています。経験豊富な調査士による、丁寧かつ念入りな調査を特長としています。画像解析、ダークウェブ調査を得意とする専門企業と提携することにより、調査の網羅性も担保しています。また、有事に備えたシミュレーション、文書管理体制の整備にも対応した「平時ソリューション」の提供を通じ、ハラスメントや経費不正請求、情報持ち出し、カルテルなどの企業不正の予兆、不穏な動きの早期発見、早期対応を支援しています。

リーガルテック情報発信サイト
FRONTEO Legal Link Portal

企業の法務担当者を対象に2020年に開設した動画ポータルサイト「FRONTEO Legal Link Portal」は、開設から1年で動画掲載数は約250本、会員数は4,000名を超えるまでになりました。日米で活躍する弁護士による最新の法務トピックを扱ったオンラインセミナーを週替わりで開催し、その模様を録画した動画をオンデマンド配信しています。国内外の様々な法規制への対応、法改正の解釈、対応策など、企業法務の実務に役立つ様々な情報を配信しています。

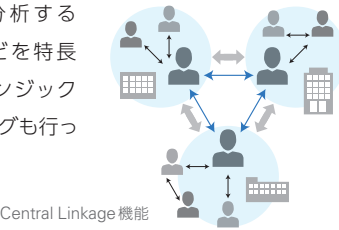


https://legal.fronteo.com/filp/

官公庁・法執行機関向けソリューション

官公庁・法執行機関向け
トレーニング実績1,000件以上

FRONTEOは、日本におけるデジタル・フォレンジック分野のパイオニアとして、創業以来、フォレンジック調査だけでなく、ソフトウェアの製造、販売、サポート、トレーニングをトータルで提供しています。また、豊富な実績と高い信頼性で、警察機関をはじめとした法執行機関向けに、メールの内容から人物の相関関係や行動を分析するCentral Linkage機能などを特長とするデジタル・フォレンジックツールの導入やトレーニングも行っています。

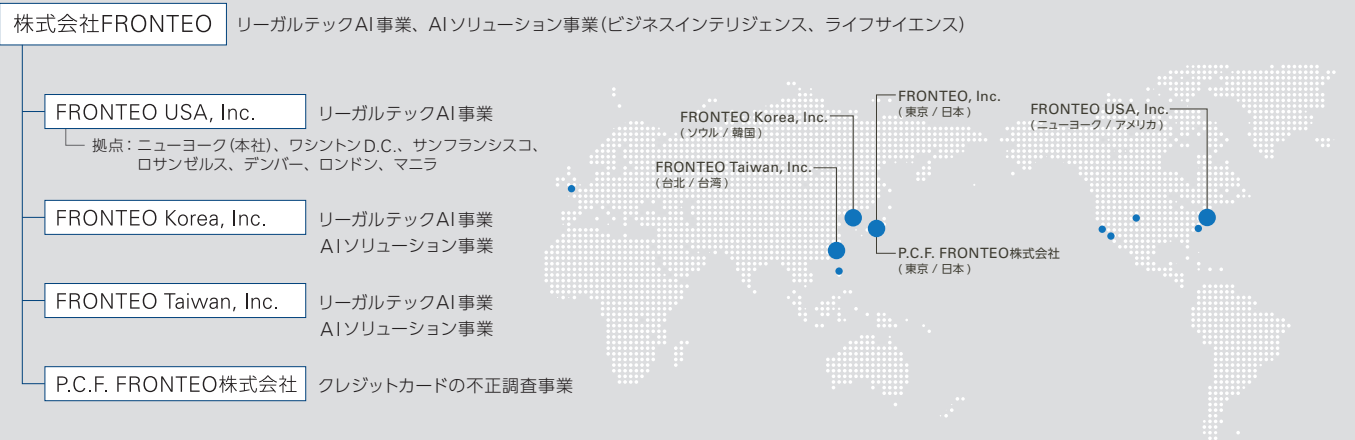


FRONTEOこれまでの歩み（会社、施設、技術の沿革）

2003	2004	2005	2007	2009
■ 株式会社UBIC 設立	■ フォレンジック ツールの販売を 開始	■ フォレンジックラボ開設 ■ コンピューターフォレン ジック調査サービス、 ディスカバリ支援サー ビスの提供を開始	■ 東京証券取引所マザーズ (現・グロース)上場 ■ 米国におけるブランド向上の ため子会社UBIC North America, Inc.を設立	■ レビューサービス開始 ■ 世界初のアジア言語対応 ディスカバリ支援システム [Lit i View (リット・アイ・ ビュー)]販売開始
2010	2011	2012	2013	
■ クレジットカード不正調査の専門子 会 社 Payment Card Forensics 株 式会社 (現・P.C.F. FRONTEO 株式 会社)を設立	■ UBIC Taiwan, Inc. (現・FRONTEO Taiwan, Inc.)設立 ■ UBIC Korea, Inc. (現・FRONTEO Korea, Inc.)設立	■ 自社開発のAI (後の KIBIT) をリーガルテック 事業で活用開始	■ 米国ナスダック上場 (2020年2月上場廃止)	
2014	2015	2016		
■ AIを活用した新規事業への本格展開を開始 ■ ディスカバリ専用データ解析ラボ開設 ■ AIの研究開発、新規事業への適用を推進す る「行動情報科学研究所」を開設 ■ 米国のディスカバリ事業会社 TechLaw Solutions, Inc.を買収、連結子会社化	■ 医療情報データ解析の専門子会社として 株式会社 UBIC MEDICAL 設立 (2016年、商号を株式会社FRONTEOヘルスケ アに変更) ■ 米国のディスカバリ事業会社 EvD, Inc.を 買収、連結子会社化 ■ 自社開発のAIを「KIBIT」として発表	■ 商号を株式会社FRONTEOに変更 ■ 米国の連結子会社3社を経営統合し、 FRONTEO USA, Inc. 設立 ■ FRONTEO USA, Inc.、米国のレビュー 専門会社 Essential Discovery, Inc. の 営業権を取得		
2018	2019	2020		
■ ライフサイエンス業界に特化し たAI「Concept Encoder」の 本格提供を開始	■ リーガルテックの施設を統合し対応 能力を強化した「FRONTEO データ サイエンスLab.」を開設 ■ AIレビューツール「KIBIT Automator」の提供を開始 ■ 株式会社FRONTEOヘルスケアを吸 収合併	■ 論文探索AIシステム「Amanogawa」の提供を開始 ■ P.C.F. FRONTEO 株式会社を完全子会社化 ■ 第一種医療機器製造販売許可を取得 ■ 技能伝承・組織知形成に役立つAIナレッジシェア システム「匠KIBIT」の販売を開始 ■ オープンソース情報を活用した経済安全保障ソリュー ションの研究を開始		

FRONTEOグループ概要

(2021年3月31日現在)



会社情報

商 号	株式会社FRONTEO FRONTEO, Inc.	上場証券取引所	東京証券取引所グロース (証券コード:2158)
設 立	2003年8月8日	主要取引先	官公庁 (法執行機関、各種監視委員会)、国内外法 律事務所、民間企業 (自動車・機械・精密機器・電機・ 製薬・石油化学・情報通信・商社など)、医療機関
本社所在地	東京都港区港南2-12-23 明産高浜ビル	加 盟 団 体	人工知能学会、日本データベース学会、言語処理 学会、日本ソフトウェア科学会、デジタル・フォレン ジック研究会、日本公認不正検査士協会、日本 セキュリティ・マネジメント学会、日本カード情 報セキュリティ協議会
代表取締役社長	守本 正宏		
従業員数	315名(連結)		
資本金	2,973,975千円		
売上高	10,370,080千円(2021年3月期連結)		

■ 行動情報科学、KIBIT、Landscaping、Concept Encoder、Amanogawa、Cascade Eye、Central Linkage、KIBIT Automatorは株式会社FRONTEOの登録商標です。

課題解決から戦略的意思決定まで

インテリジェンスで未来を創る

株式会社FRONTEO

〒108-0075 東京都港区港南2-12-23 明産高浜ビル TEL: 03-5463-6344 www.fronteo.com

© 2021 FRONTEO, Inc.